



# 住まいのおしゃべり広場

末政建設株式会社

<http://www.suemasa.co.jp>

2014年 1月 発行 第45号

## 目次

1. 一番星、見い〜つけたあ〜
- 2〜3. 「チャコの家」あつたか24時
4. ・構造内覧会  
・風水で運氣アップ

## 謹賀新年

明けましておめでとうございます。今年も、末政建設の情報誌「住まいのおしゃべり広場」を宜しくお願い申し上げます。さて、本誌は今回でめでたく45号目を発刊することとなりましたが、今までの2月、5月、8月、11月の発行から本年より気分一新、1月、4月、7月、10月の発行に変わりました。これまで以上に内容を充実してタイムリーな情報、イベントや心とむような話題をお届けできるよう頑張っております。これまで同様、当社スタッフが皆様の玄関先まで心を込めてお届けします。

## いちばんほ〜し 一番星、見い〜つけたあ〜



昨年9月に行われた『第6回ちりとてちん杯全国女性落語大会』で、見事ちりとてちん大賞を獲得した、坂井市丸岡町在住で小学校の先生をしている小林千春さんを紹介しします。

この大会は、福井県の小浜が舞台となったNHK朝の連続テレビ小説「ちりとてちん」が放送された翌年から小浜市で開催されている女性だけの落語大会です。全国の女性アマチュア落語家は、学生、社会人を合わせると100名以上いると言われていて、今回は50数名が大会に挑みました。予選は6分、決勝は15分で得意演目を披露して、プロの落語家が審査します。決勝に進んだ6名は県外からの出場者ばかりで、県内出身者が全国を制するのは初めての事です。

小林さんは、落語を始めて2年ほど。この「ちりとてちん」を見て落語の魅力に引き込まれ、習ってみたいと思っていたところ、たまたまFMラジオを聴いて福井市に「ふく福落語会」というアマチュア落語の会があると知り、即入会したとの事。すごい行動力ですね。会に入ったものの落語について理解してもらえとは思えず、周囲に知らせることもなく、ひとりお風呂の中や通勤の車の中で練習し、月一回のお稽古で大阪から来福するプロの落語家、露の都さん（女性落語家第1号者）に指導してもらっていました。昨年引き続き出場した今回の大会も、大阪、兵庫、東京などから参加する人たちのレベルの高い落語を聴けるのが楽しみと思いましたが、思いがけず決勝に進んでしまい、本人も会の皆もびっくりするやら、大喜びするやら。「どうせ私が一番下手だと思うから楽しんでやろう！と思ってやったのが逆に良かったかも」と謙遜されていましたが、練習の成果でしょうね。優勝して翌日新聞に大きく掲載されたので、職場や学校関係、友人、知人、親戚など一気に知れ渡り、メールや電話が殺到して対応に追われたそうです。



先月のとある日、丸岡町内で落語をすると聞いてお邪魔しました。この日は決勝で披露したネタと他にもう一つ披露されました。どちらも2人の人物が登場し2役するのですが、その話し方や表情はその人物になりきって口調やトーンも変え、滑稽にしたり怒ってみたり身振り手振りも入れて話すので、その姿はとても素人とは思えませんでした。お客さんはすっかり聞き入って、その情景を思い浮かべて大声で笑い、最後の落ちでは盛大な拍手を送っていました。「初心者なのに、みんなが楽しそうに笑ってくれると嬉しいし、練習の励みになります」と嬉しそうでした。小林さんのますますのご活躍を期待しています。